



みんなの「なんな一?」を伝えるこども記者のための新聞(毎月1回発行)

# 信毎こども記者ニュース

こども記者クラブ(信濃毎日新聞地域活動部) 〒380-8546 長野市南県町657  
TEL 026-236-3110 FAX 026-236-3193 電子メール t-chiiki@shinmai.co.jp

no.50

## 取材教室 「いわさきちひろの世界」

ふんわりやさしい感じの絵が特徴の絵本画家いわさきちひろの作品には、秘密がいろいろあります。取材教室「いわさきちひろの世界」を7月13日、北安曇郡松川村の安曇

野ちひろ美術館で開きました。絵の表現方法やちひろの生涯についてこども記者10人が取材。独特の描き方「にじみ技法」にも挑戦しました。



いわさきちひろは、小さいころから画家になろうと思っていたのではありません。画家になろうと思ったのは、30歳ごろからののだそうです。小さい時から絵がうまく、

人前に出て絵を描くこともあったのに、なぜだろうと不思議に思いました。

ちひろは、こども向けの絵本もたくさんつくりました。その中で「あひるでちゃぶちやぶ」が一番売れているそうです。ほくは家に帰って探してみたら、この本がありました。独特の「にじみ技法」が、やっぱり使われていました。最初は何も知らなかったちひろのことが、よく分かりました。

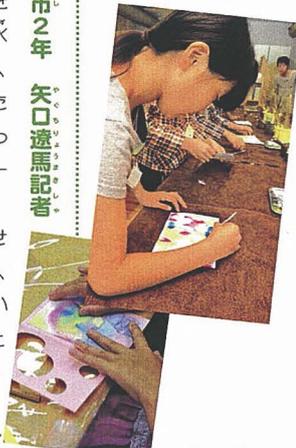
長野市6年 赤井崎真記者



いわさきちひろの絵のかき方の「にじみ」と「白ぬき」を体けんしました。にじみは、水をたっぷりぬった画用紙に、赤、青、黄色の3色の絵の具をたらします。すると3色がまざって、オレンジ、むらさき、ピンク、エメラルドグリーンができました。

白ぬきは、白くのところは水をぬりません。ちひろの作品「やぎと男の子」のやぎは、せなかとうしろ足が上手に白ぬきができています。たぶん、細いひでで、水をぬったのだと思います。にじみより白ぬきの方がむずかしいことが分かりました。

松本市2年 矢口遠馬記者



取材教室では、最初に、ちひろさんが使っていた絵の具(水彩絵の具、ポスターカラーなど)や、筆、ペンなどを見たり、作品の見学をしました。

ちひろさんの絵のかき方は、にじみや白ぬきのほかに、先にぬった色がかわく前に別の色をたらしてにじませる「たらしこみ」や、筆のかすれた感じを生かした「かっ筆法」などがあります。ふつうの絵とはかき方がちがうので、なぜそういうふうにかいたのだらうと思いました。

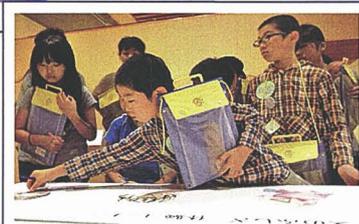
山形村4年 伊藤遠佳記者



一番びっくりしたのは、いわさきちひろが9400点をこえる作品をかいたことです。ちひろは、家族の生活のため、絵をかいてお金をかせがなくてはならず、生まれて2か月くらいの赤ちゃんを長野の両親にあずけました。ちひろは東京に住み、赤ちゃんは長野にいるのでなかなか会えず、かわいそうだと思います。

ちひろの子どものころのことも聞きました。絵のほかにも、スキーや水泳など、何でもできたそうです。学びい会では、全校の前でそっきょうで絵をかくほど、絵も上手だったそうです。

富士見町4年 安藤葉記者



☆にじみ技法は、8月17日まで、安曇野ちひろ美術館で体験できます。地元、松川中学校の生徒が講師となって、描き方を教えてくれるよ。興味のある人は、同館に問い合わせてね。

☎0261-62-0772